

第1学年2組 外国語科(英語) 学習指導案

日 時：平成26年10月15日(水) 5校時

場 所：広瀬中学校図書館

授 業 者：教 諭

：司書教諭

：学校司書

1 単元名 Unit5 お祭り大好き (NEW HORIZON English Course Book1)

2 単元の目標

- ペアワークやグループ活動において、間違ふことを恐れずに話す。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- 店での注文および支払いのやりとりができる。【外国語表現の能力】
- 「…しよう」と提案したり、「…してください」と申し出たり、「…しなさい」と指示したりすることができる。
【外国語表現の能力】
- 名詞の複数形、How many...?の文とその応答、Let's...の文と命令文の形・意味・用法を理解する。
【言語や文化に関する知識・理解】

3 図書館活用教育の視点

- 情報カードを使って集めた情報を比較・選択する力を身に付ける。

4 学習の基盤

本単元は、日本人中学生が外国語指導助手の先生と一緒に町の祭に参加する場面を扱っており、外国の方と一緒に日本の文化や行事を楽しむことへの関心や意欲を高めるのに適した教材である。祭のジュース売り場、世界の音楽CD売り場、金魚すくい等の三場面の中で使われている表現は、実生活の中でもよく使う表現であり、生徒にとって伝えたいことをどのような時にどのように表現するのかを捉えやすい構成になっている。買い物の活動は小学校でも経験してきていると思われるが、この単元では店員が注文の数を間違えることで苦情を言う場面が加わっており、多くの表現が一つの単元にうまくまとめられている。また、世界の音楽や祭など外国の事物に目を向けさせるのに適した教材である。文法事項としては、Part1では名詞の複数形、Part2ではHow many...?の文とその応答、Part3ではLet's...の文と命令文が取り上げられている。生徒にとっては、可算名詞には単数形と複数形がある点や複数形の発音とつづりは難しいと思われるが、物や人の数の応答や、人に提案・申し出・指示する表現を使用できることで、いっそう表現の幅が広がると考える。

本単元の学習を通して、店での注文および支払いのやりとりや、「…しよう」と提案したり、「…してください」と申し出たり、「…しなさい」と指示したりする表現を運用できる力を養いたい。言語材料については、先に音声に十分慣れさせ、口頭練習を十分に行わせることで定着を図りたい。複数形は、身近な単語を使って単数の場合と複数の場合を言い分ける練習を多く行い、発音とつづりについてのきまりが自然に身に付くように指導する。諸外国におけるさまざまな事物の数についてのクイズ大会を行うことで、複数形とHow many...?の文をたくさん聞き、話し、書かせる機会とするとともに、図書館を活用した情報活用スキルの向上を図りたい。命令文はクラスルーム・イングリッシュで耳慣れているが、場面ごとに口頭練習を行うことで文型の定着をめざす。単元末では、店での注文および支払いのやりとりをするタスク活動を行わせることで、新出事項を必然性のある形で運用することに慣れさせるとともに、コミュニケーションへの関心や意欲を高める機会としたい。第3時では、司書教諭、学校司書とともに諸外国のいろいろな事物の数についての情報を収集するスキルを指導する。第4時でも、生徒が収集した情報を取捨選択しながら、回答者を意識したクイズの作成ができるよう、3人がひとりひとりの生徒をきめ細やかに支援できる体制をつくりたい。

5 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
<p>① 辞書や情報カードを活用してクイズを作っている。 「書くこと」(言語活動への取組)</p> <p>② ペアワークやグループ活動において間違ふことを恐れずに話している。 「話すこと」(言語活動への取組)</p>	<p>① 状況にふさわしい表現を用いて店での注文および支払いのやりとりを行うことができる。 「話すこと」(適切な発話)</p>	/	<p>① 名詞の複数形の発音とつづりを理解している。 「聞くこと」「書くこと」(言語についての知識)</p> <p>② How many...?の文の形・意味・用法を理解している。 「書くこと」(言語についての知識)</p> <p>③ 命令文の形・意味・用法を理解している。 「書くこと」(言語についての知識)</p>

6 単元の指導計画

時	ねらいと主な学習活動 (○ねらい ・学習活動)	評価 規準	評価方法
1	<p>○ 名詞の複数形の発音とつづりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 名詞の複数形を使った様々な文を聞いたり読んだりして、その意味を推測する。 絵を用いた口頭練習を通して、複数形の発音に慣れる。 教科書本文(p.44,45)を通して、名詞の複数形の発音とつづりについて知る。 	エの①	筆記テスト (後日)
2	<p>○ How many...?の文の形・意味・用法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の言う How many...?クイズを聞き、答える。 教科書本文(p.46,47)を通して、How many...?の文の形・意味・用法を理解する。 How many...?を用いたインタビューゲームを通して、形・用法に慣れる。 	エの②	筆記テスト (後日)
3	<p>○ 外国のさまざまな事物の数について、クイズになりそうな情報を集め、情報カードにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 5つの地域ごとのグループに分かれて、数についてのクイズになりそうな情報を本や資料から収集する。 収集した情報は情報カードにまとめる。 		
4 (本時)	<p>○ 外国のさまざまな事物の数について、情報カードを活用しながらクイズを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報カードを比較・選択する。 グループ内でアドバイスし合い、クイズを作成する。 グループで次時のクイズ大会の準備を行う。 	アの①	活動の観察
5	<p>○ 外国のさまざまな事物の数についてのクイズ大会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとにクイズを出し合い、答え合う。 問題に関する質問をし合い、答え合う。 		
6	<p>○ 命令文の形・意味・用法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 命令文を使った様々な文を聞いたり読んだりして、その意味を推測する。 教科書(p.48,49)を通して、命令文の形・用法を理解する。 絵を用いた口頭練習を通して、命令文の形・用法に慣れる。 	エの③	筆記テスト (後日)
7	<p>○ 店での注文および支払いのやりとりを練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアで店員役とお客役になり、店での注文の対話を練習する。 	アの②	活動の観察
8	<p>○ 店での注文および支払いのやりとりのタスク活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 店員のタスクカードと、客のタスクカードを引き、カードに書かれている内容に基づいたタスクを行う。 	イの①	スピーキング テスト(タ スク活動)

7 本時の学習

(1) 本時のねらい

辞書や情報カードを活用してクイズを作る。

【「書くこと」コミュニケーションへの関心・意欲・態度(言語活動への取り組み)】

(2) 本時の展開

時分	学習活動と評価	教師の支援 ☆教科担任★司書教諭◇学校司書
2	1 本時の目標と活動の流れを知る。 ○ 情報カードをもとに、図書資料を使いながらクイズを作ろう。 ○ 辞書を使いながらクイズを作ろう。	☆ 本時の学習に見通しが持てるように、目標と活動の流れを提示する。
5	2 世界 How many...?クイズの例を知る。	☆ クイズ作成のイメージをもたせるために、情報カードを活用して作ったクイズの例を示す。 How many lessons? (1 week) A: 20 lessons B: 29 lessons C: 35 lessons ★ 情報カードの活用の仕方を示すために、図書資料とそこから読み取った情報を紹介する。
2	3 どのような情報がクイズの問題の材料になりうるか、観点を知る。	☆ 「面白い、または興味をそそられる情報」、「ものや人の数に関する情報」が今回のクイズ作成に有用な情報だということを伝える。
8	4 情報カードを確認し、情報を補足したり、削除したりする。	★ 情報カードを活用させやすくするために、情報が正しいか、また情報の読み取りは正しいかを図書資料で確認させる。
5	5 情報カードを活用して、情報を比較・選択する。	☆★◇ 情報カードをもとに、図書資料を参照させながらクイズになりそうな内容を選択できるよう、アドバイスをを行う。
10	6 情報カードを活用してクイズを作成する。 辞書や情報カードを活用してクイズを作っている。(活動の観察)	★◇ 複数形のつづりがわからない生徒には、英和辞典の使用を促す。 ☆ つづり等正しく書けているか、ひとりひとり確認する。
13	7 グループ内で各自が作成したクイズを出し合い、次時のクイズ大会で出題するものを選ぶ。	☆ 生徒が積極的に出題できるよう、複数形の発音がわからない場合は質問を受けることを伝える。
5	8 本時の活動を振り返る。	★ 情報カードの活用について良かった点や気になった点を伝える。 ☆ 活動全体を通して、良かったところを具体的にあげて確認することで生徒の次時への意欲を高めるようにする。

(3) 本時の評価

	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	努力を要するとされる生徒への具体的な支援
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	情報カードをもとに、図書資料や辞書を使いながら How many クイズを1つ作っている。	作成した情報カードをもとに、図書資料を参照させながら、How many クイズの作成によりふさわしい内容を選択させる。 複数形のつづりがわからない生徒には、英和辞典も参照させながら形を見つけさせる。

(4) 授業研究の視点

情報カードを比較・選択して表現活動を行わせるための指導体制は適切であったか。